

## リユース機と現行機の環境負荷の比較

51-60 枚機について、表 1 の方法によりオリジナル機とリユース機、類似現行製品の環境負荷の比較を行った。結果を図 1, 2 に示す。

表 1 機種別環境負荷の比較の方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO<sub>2</sub> 排出量で表現</li> <li>・ 省エネの計算方法はエネルギー消費効率</li> <li>・ 使用時の環境負荷は、紙は除きトナーなどの消耗品と使用電気エネルギーなどを含む</li> </ul> <p>(以上エコリーフの計算方法どおり)</p> <p>ここで、比較機種 (モノクロ複写機 60 枚/分クラス) は以下のとおり</p> <p>オリジナル機 : 3~6 年前に売り出された再生機の母体となる機械</p> <p>リユース機 : 3~5 年稼働後、市場から回収し、製造ラインで分解・修理・再生をした新品と同水準の品質の機械</p> <p>類似現行製品 : 最近売り出された同クラスの現行製品</p>
---

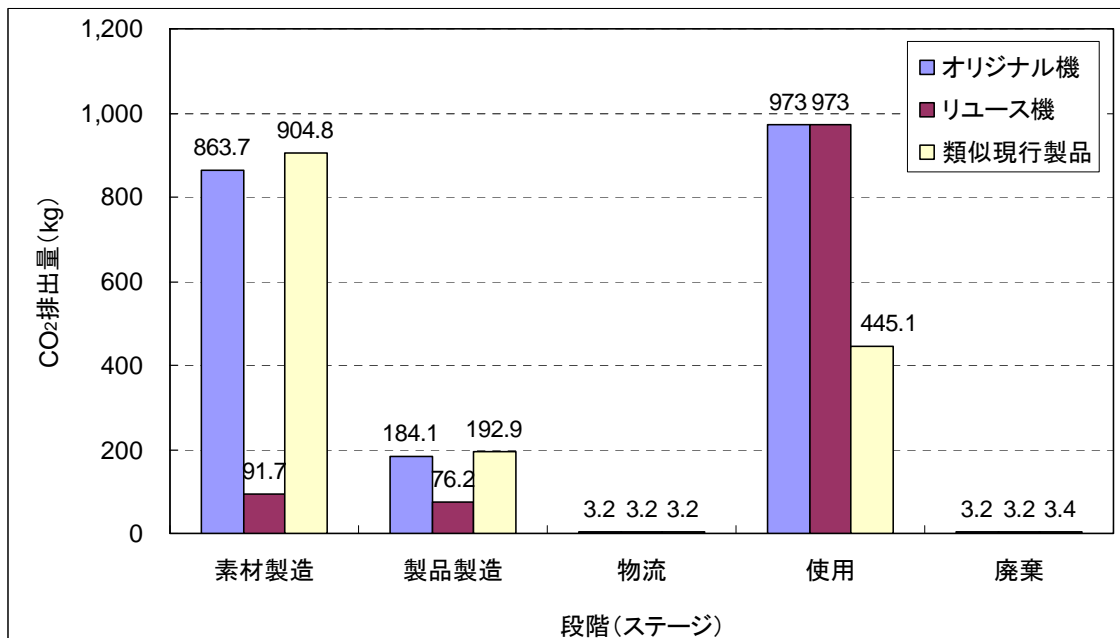


図 1 機種別ライフサイクルステージ別の CO<sub>2</sub> 排出量

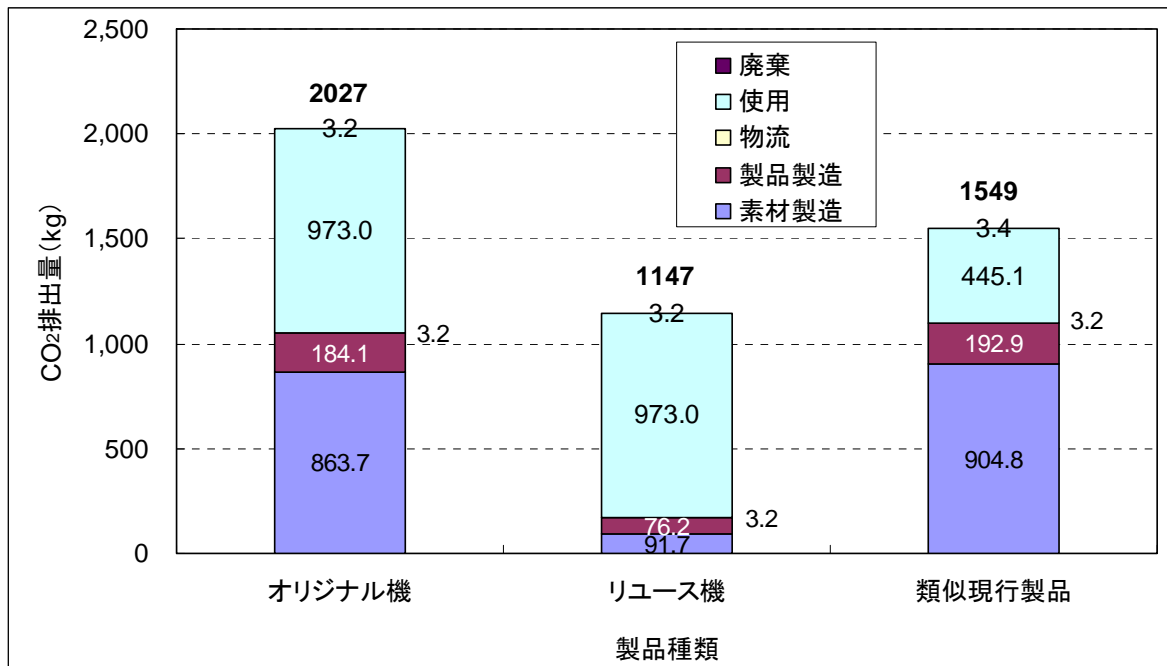


図2 機種別ライフサイクル合計のCO<sub>2</sub>排出量

以上の比較より、次の二点が言える。

- ・ リユース機は素材・製造過程で大幅なCO<sub>2</sub>排出削減が可能であり、ライフサイクル全体で優位性がある。
- ・ 一方、使用段階の省エネ性能を比較した場合、現行機が優れる。